

製品名: OCTN2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab15106**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	65kDa

抗原情報

遺伝子名	SLC22A5
別名	SLC22A5; OCTN2; Solute carrier family 22 member 5; High-affinity sodium-dependent carnitine cotransporter; Organic cation/carnitine transporter 2
遺伝子 ID	6584.0
SwissProt ID	O76082
免疫原	抗血清はヒト SLC22A5 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 300-349

背景

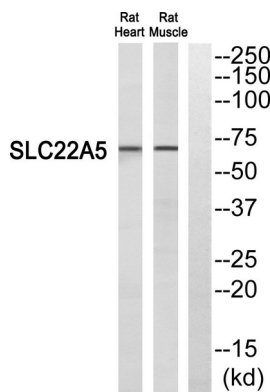
肝臓、腎臓、腸管、その他の臓器に存在する多特異性有機カチオントランスポーターは、多くの内因性低分子有機カチオン、ならび

に多様な薬物や環境毒素の排泄に極めて重要です。コードされているタンパク質は、有機カチオントランスポーターとナトリウム依存性高親和性カルニチントランスポーターの両方の機能を持つ、細胞膜タンパク質です。コードされているタンパク質は、カルニチンの能動的な細胞内取り込みに関与しています。この遺伝子の変異は、全身性原発性カルニチン欠乏症 (CDSP) の原因となります。CDSPは常染色体劣性遺伝疾患であり、幼少期には低ケトン性低血糖および急性代謝代償不全として、後期には骨格筋症または心筋症として発症します。この遺伝子の選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。 [RefSeq 提供、2015年4月],疾患: SLC22A5 の欠陥は、全身性原発性カルニチン欠乏症 (CDSP) [MIM:212140]の原因です。CDSPは、カルニチン輸送の欠陥によって引き起こされる脂肪酸酸化の常染色体劣性疾患です。幼少期には低ケトン性低血糖と急性代謝代償不全を呈し、後年は骨格筋症または心筋症を呈します。疾患: SLC22A5 の欠陥は、クローン病 (CD) [MIM:266600]に対する感受性の原因となる可能性があります。CDは、寛解型炎症性腸疾患 (IBD) の一種です。CDは消化管のどの部分にも影響を及ぼす可能性があります、最も多くみられるのは末端回腸と結腸です。腸の炎症は腸壁全体に及び、不連続です。CDは一般的に自己免疫疾患に分類されます。機能: ナトリウムイオン依存性、高親和性カルニチントランスポーター。カルニチンの能動的な細胞内取り込みに関与しています。カルニチン1分子でナトリウムイオン1個を輸送します。また、テトラエチルアンモニウム (TEA) などの有機カチオンをナトリウムの関与なしに輸送します。また、カルニチンと TEA の相対的取り込み活性比は 11.3 です。その他:エメチン、キニジン、ベラパミルによって阻害されます。エメチンの IC(50) は 4.2 uM です。バルプロ酸によって阻害されません。類似性:主要促進因子スーパーファミリーに属します。有機カチオントランスポーターファミリー。サブユニット:PDZK1 と相互作用します。組織特異性:腎臓、骨格筋、心臓、胎盤で強く発現しています。上皮細胞を含む、クローン病に罹患する腸の細胞型で高度に発現しています。CD68 マクロファージおよび CD43 T 細胞では発現しますが、CD20 B 細胞では発現しません。

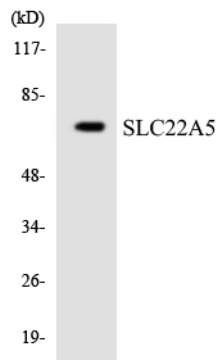
研究分野

シグナル伝達; 代謝; 細胞膜; チャネル

画像データ



SLC22A5 抗体のウェスタンブロット解析。右レーンには SLC22A5 ペプチドでブロッキングされている。



SLC22A5 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウエスタンブロット分析。